



園児に囲まれてキンモクセイを植樹

市と掛川市の姉妹都市提携5周年を祝して4月10日、胆沢総合支所で記念植樹を行いました。小沢昌記市長、江口友之副市長、NPO法人胆沢文化会館自主事業協会の村上輝夫理事長が、市の木「モミジ」と掛川市の木「キンモクセイ」を正面玄関前に植樹。胆沢保育園（宍戸由美子園長、園児120人）きいろ組の24人も参加し、両市の友好に花を添えました。

参加した園児からは「大きな木に育つのが楽しみ」と2本の木の成長を期待する声があがっていました。

「静岡県掛川市とのさらなる友好を誓って」



小沢市長から委嘱状を受け取るチーム員

市は4月13日、地域6次産業化推進チームを設置し、チーム員に委嘱状を交付しました。同チームは、昨年度策定された「奥州市地域6次産業化ビジョン」を推進し、地域ぐるみの産業振興を目指します。

今回委嘱を受けたのは6人。市内の農業者、企業経営者、主婦などで構成され、岩手大学の広田純一教授がコーディネーターを務めます。

小沢昌記市長は「地域6次産業化は、まだ種まきの状態。お力添えをお願いしたい」とチーム員の活躍に期待を込めました。

「食の黄金文化・奥州」の実現を目指して」



調印を交わした小沢昌記市長と岩井会長

市は、「災害発生時における福祉避難所の設置運営に関する協定」を市内13の社会福祉法人（18施設）と締結しました。

この協定により、災害発生時に市の要請を受けた福祉施設などが協力して「福祉避難所」を設置。障がいのある人や高齢者など、一般の避難所では生活が困難な人を受け入れます。

調印式は3月30日、市役所で行われ、13法人を代表して市社会福祉協議会の岩井憲男会長が「災害発生時の支援に全力を尽くしたい」と抱負を語りました。

「災害時の避難所生活を社会福祉法人が支援」



合意書を取り交わした(左から)新家水沢署長、小沢市長、山田江刺署長

市は、市暴力団排除条例の制定に伴い4月2日、暴力団の排除に関する合意書を水沢署（新家勝昭署長、江刺署（山田剛署長）の両署と締結しました。

合意書では、3者の情報交換の枠組みを明文化。市は、入札参加業者や補助金の対象者などが暴力団関係者でないかを両署に照会できるなど、行政事務から暴力団を排除するための連携を強化します。

小沢昌記市長は「暴力団の資金源を絶つため、行政がいち早く察知し、警察と連携して被害を防ぎたい」と力を込めました。

「行政と警察の連携で暴力団を徹底排除」



市が東北誘致に取り組んでいる「国際リニアコライダー（以下、ILC）計画」について最新情報をお届けします

希望のひかり 第29回

ILC国内候補地が北上山地に決定してからもうすぐ2年。文部科学省では、昨年からは有識者会議を設置。また、ことし1月にはILCの国際推進組織であるリニアコライダーコラボレーション（LCC）が視察のため来県するなど、ILCの実現に向けた国内外の動きはますます活発になっていきます。

ILC実現に向けて本年度が勝負の年

国際的には、国会議員の連盟が関係国と協議するなど、高官レベルでの実質的な協議が少しずつ進んでいます。また、国内では、文部科学省が設置した有識者会議において、①ILCの科学的意義の検証②コストの精査③技術上の課題抽出——などが行われ、本年度中には文部科学省に報告が行われる予定です。このような状況から、誘致の是非については、今後1年ほどの間に決定する可能性が非常に高

いと言われます。まさに、本年度がILC実現に向けた勝負の年なのです。

ILC東京宣言——日本の誘致を世界に発信

4月22日に東京大学で開催されたILC東京シンポジウム。LCCとアジア・リニアコライダーワークショップに集まった世界各国の研究者総勢300人が、「ILC東京宣言」を発表し、ILCの日本誘致を世界に発信しました。（宣言の要旨は下記のとおり）



ILC誘致に伴い、活発に活用されることが期待される気仙沼港を視察

海外の研究所広報担当者が現地視察

4月23日、24日の2日間、海外7カ国の研究所の広報担当者らが本県を視察に訪れました。初日は一関市大東町の衝突点周辺を視察後、陸前高田市で復興の進捗状況を確認。最後にILC関連部品の荷揚げが想定される気仙沼港の状況を確認しました。ドイツ電子シンクロトロン（DESY）

ILC東京宣言の要旨

- ① ILCの役割は、誕生直後の宇宙を探索することである。ILCでの研究は、宇宙の始まり、進化、現状を深く理解するために、他の研究で置き換えることのできない必要不可欠なものである。我々科学者は、ILCが建設され、そこで研究することを切望している。
- ② ILCは技術的に実現可能である。このことは、先に発表された技術設計報告書（TDR）で示されている。ILC計画は、今後の工学設計段階を経て建設開始できる状況となっており、今や各国政府が関与して実施に向けた決断へと進んで行く段階に来ている。現在、日本政府によりILCプロジェクトの評価が行われていることに、我々は深く謝意を表する。
- ③ ILC計画は、今までで最大規模の科学プロジェクトの一つである。ILCを実現するためには、各国間で費用や技術提供の分担を行う国際的な仕組みの構築が必要である。我々は各国の政府間、財政当局間の協議を促進し、早急にこの目標を達成すべく努力していく。

のバーバラ・ワームバイン氏は「里山のイメージをつかむことができた。研究所に戻ったら、ニュースレターで発信したい」と語っていました。

2日目は、市内のショッピングセンターで生活環境を調査した後、国立天文台の視察とILCサポート委員会との意見交換が行われました。

「岩手に来て気付いたこと」。視察団からは「ILCとは関係のない行事の中にサプライズでILCイベントを組み込むことで、科学に苦手意識が



ILCサポート委員会と視察団の意見交換。外国人目線で岩手について語りました

ある人にも触れてもらいやすくなる」という意見や「ILCの普及啓発が活発に行われており素晴らしい」と感心する声が上がりました。

本コーナーでは、ILC計画について皆さんからの質問にお答えします。電子メール、ファクスでお気軽に質問ください。お問い合わせ先：本庁政策企画課ILC推進室（内線4112・4115、FAX 025533-1110、E-mail: ilc@city.oshn.lwate.jp）